

豊島区生涯学習推進ビジョン

2025-2029

骨子（案）

令和7年3月改定予定

- ・ はじめに～生涯学習とは～

第1章 ビジョンの改定にあたって

1-1 豊島区の生涯学習を取り巻く現状と課題

(1) 国の状況

- ・ 令和5年6月「第4期教育振興基本計画」
- ・ 令和6年6月、中央教育審議会に「地域コミュニティの基盤を支える今後の社会教育の在り方と推進方策について」諮問
- ・ 社会教育法改正

主な審議内容

- 社会教育人材を中核とした社会教育の推進方策
- 社会教育活動の推進方策
- 国・地方公共団体における社会教育の推進体制等の在り方

(2) 都の状況

- ・ 東京都生涯学習審議会令和6年1月「地域・社会とともにある都立学校を目指してー都立学校公開講座の在り方を中心にー」建議
- ・ 『『未来の東京』戦略』でも取り上げているテーマ「子供」「高齢者」「生涯学習」「共生社会」「コミュニティ」
- ・ 不登校過去最多
- ・ 学校教育と社会教育の連携

主な提案内容

- 次世代を担う子ども・青少年の支援
- 高齢者をはじめとする地域住民が豊かに生活できる場づくり
- 地域・社会の中で都民の学び合いを活性化する担い手の育成

(3) 豊島区の状況

①持続発展都市に向けて次のステップ

- ・消滅可能性都市を脱却
- ・ブラックホール型自治体に位置付け
- ・「豊島区基本構想」「豊島区基本計画」ダブル策定

②多文化共生の推進

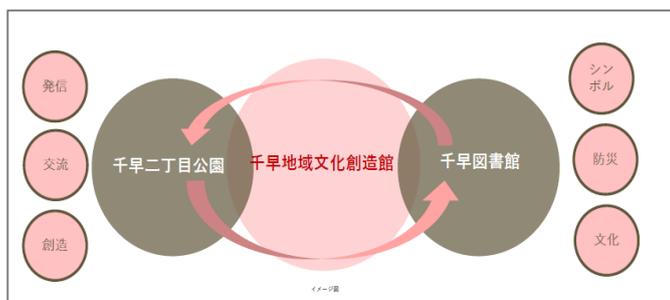
- ・外国人人口増加
- ・若者の外国人人口増加
- ・多国籍化（122の国と地域）
- ・外国人相談窓口の開設
- ・「日本語教室」の運営

③若者の学習支援

- ・令和2年3月「豊島区子ども・若者総合計画」
- ・サードプレイスの充実
- ・すずらんスマイルプロジェクト
- ・ブックカフェ
- ・若者の定義

④豊かな学習資源のあるまち

- ・都市型生涯学習
- ・千早地域文化創造館、千早図書館、千早二丁目公園の一体開発



1 - 2 前期 **ビジョン** のふりかえり

(1) つどう 生涯学習の環境整備

<主な取り組み>

- ・地域講師の活用
- ・大学や企業との連携
- ・コロナ感染対策中の学びの継続

<課題と方向性>

- ・誰もが学びの機会に触れられるよう場の整備
- ・生涯学習の担い手の高齢化
- ・外国人人口の増加
- ・生涯学習施設の機能強化

(2) つながる コーディネート機能の充実

<主な取り組み>

- ・学んだ成果を発表する機会の提供
- ・ブックカフェのコーディネーター配置

<課題と方向性>

- ・学んだ成果を生かすコーディネート機能の充実
- ・生涯学習施設の利用率

(3) つくりだす ネットワーク構築

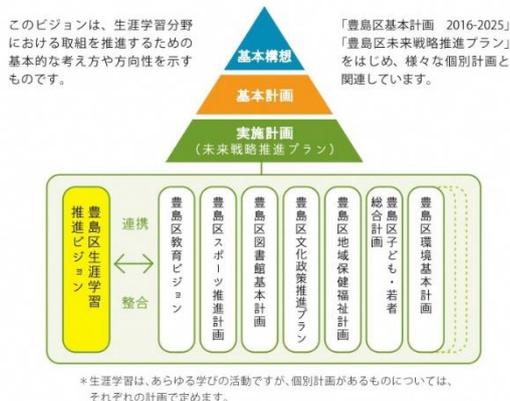
<主な取り組み>

- ・としまコミュニティ大学マナビト生による学習交流会

<課題と方向性>

- ・多様な主体がつながる仕組みづくり
- ・ネットワーク構築
- ・社会教育人材の活用

1-3 ビジョンの位置づけ



1-4 ビジョンの期間

本ビジョンの策定期間は、令和7(2025)年度から令和11(2029)年度までの5年間とする。生涯学習を取り巻く環境、社会変化に対応するため、5年に1回の改定を継続する。

R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11
2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029
豊島区生涯学習推進ビジョン 2020-2024					豊島区生涯学習推進ビジョン 2025-2029				

1-5 重点ターゲット



第2章 生涯学習の推進に向けて

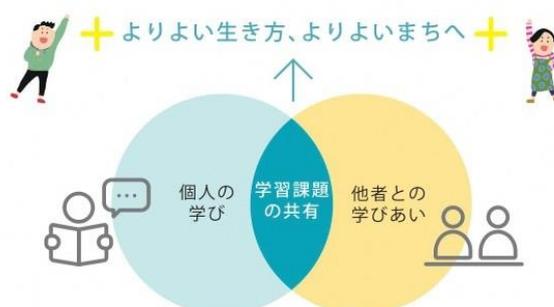
2-1 体系図



2-2 理念

ともに学びあい、よりよい生き方、よりよいまちへ

個人が学びを通して生きがいを感じるとともに、他者と学びあうことで地域との“つながり”や“かかわり”を生み出し、地域で協力しあえる関係を築き、地域を良くしようという意識が醸成されたまちを目指します



2-3 生涯学習推進の目標

KEYWORD1 つどう つながる つくりだす

2-1 生涯学習推進の目標

目標 学びの循環(わ)を広げる
「としま学びスタイル」の実現

前期計画で達成した、学びの成果を生かし学びと活動の循環をさらに広げていく取組みを推進していくために、「学びの循環(わ)を広げる」としま学びスタイルの実現を目標とします。

この目標は、行政だけではなく区民をはじめ、様々な主体と協働しながら進めていくものです。学ぶ場や機会、人や情報をつなぐこと、学びや活動の創造、これらすべてが学びを支える施策に関わってきます。

「としま学びスタイル」を実現するための3つの方針は、「つどう」「つながる」「つくりだす」です。これらはどれも、どれが先というものではありません。

KEYWORD 1
つどう つながる つくりだす

誰もが自分のスタイルで、自由で多様な学習ができるよう、生涯学習環境や活動拠点、学習機会を整備します。個人、仲間同士、グループや組織を含め、あらゆる人々が学びと活動に参加・参画し、地域に身近な「つどう」場と機会があることで、「学ぶ、発信する、活動する、ふりがえる、そしてまた学ぶ」という、学びと活動の好循環が行われていきます。

このように学びと活動は常に循環し、学んだ成果が地域社会に還元されるよう、生涯学習の推進に向けて区では各部署と連携を図るとともに、区内にある生涯学習を行っている関係機関、学校、企業、NPOなどと協働して、学びを継続・発展させていきます。そのために、学習情報の収集と発信・提供や生涯学習に関する相談、学習成果を表現し、発信する機能の強化に取り組みます。学びを通して人と情報が「つながる」ことで学びあいが広がっていきます。

学びの循環を広げるために、学習活動のネットワークや組織化・社会化を支援し、多様な活動期間の連携・協働を推進し、持続可能な取組みへと発展させていきます。学びの成果を生かし、学んだことが次の学びのサポートをすることで地域人材の育成を促したり、地域資源を活用したまちづくりを進めることで、新しい文化や価値を「つくりだす」ことを目指していきます。

12



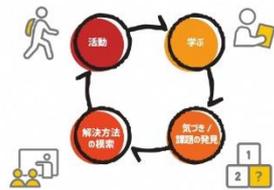
13

KEYWORD2 学びの循環(わ)を広げる

KEYWORD 2
学びの循環(わ)を広げる

改めて「学びと活動の循環」とはどのようなものでしょうか。学びにより、様々な気づきや課題の発見があります。課題を解決しようとして活動が展開されることがあります。しかし、簡単に解決する課題ばかりではありません。学ぶことにより解決策を考え、活動し、また学ぶ、という循環がより確かな解決への道筋を明らかにしていきます。

こうした循環は、一人ひとりの中だけではなく、地域での循環もあれば、世代を超えての循環もあり、また、区民や区民団体、行政、企業、NPO等の立場を超えて、さらに教育、福祉、環境、防災等の領域をも超えてつながりあい、学びと活動の循環を生み出す可能性もあります。循環が他の循環と影響しあうことで、より大きな循環を生み出す可能性もあります。多様な学習資源が存在する都市型生涯学習の中で、それぞれのライフスタイルに応じて学んでいくことが「としま学びスタイル」なのです。



14



生涯学習振興行政とは、区民の生涯にわたる学習活動を奨励・振興し、学習の成果を活用・促進していくために必要な条件を整備していくことです。学習活動にかかわる行政は、学習・スポーツ課に加え、多様な分野で実施されています。これらについては、それぞれの所管において適切に進められていく必要があり、行政機関間にも必要なネットワークを広げ、学んだ成果を発信していくことが求められています。

15

2-4 施策の方向性

(1) つどう

- ・ 多様な学習機会の提供
- ・ 活動拠点の機能強化
- ・ 地域の人材発見とその力を生かす機会の拡大
- ・ 地域資源の発見と活用

(2) つながる

- ・ つながりを生むコーディネート機能の充実
- ・ 区民による学習相談体制の整備
- ・ 多様な主体がつながる機会づくり
- ・ 活動施設の連携強化

(3) つくりだす

- ・ 学習ネットワークの充実
- ・ 学びあいの成果を生かした協働のまちづくり
- ・ 学びを通じて地域コミュニティを支える人材育成と仕組みづくり

第3章 としま学びスタイルの実現に向けて

としま学びスタイルの実現に向けて、特に重点的に展開するものを重点取組として設定し、進捗管理を行うことにより、より効果的な施策の実施に努めていきます。

3-1 重点取組1 子ども・若者の学びの支援

(1) 背景

- ・生涯学習の担い手の高齢化
- ・孤独、孤立の現状
- ・不登校児童の数
- ・体験学習の格差
- ・外国籍の若者の増加

(2) 目指す5年後の姿

子ども・若者が学びを通して、地域の課題解決に主体的に関わり、自ら考え実行する力を育むことで、将来的な社会教育人材となり地域コミュニティの活性化につながる。

(3) 取組方針

- ・子ども・若者のニーズを捉えた学習支援
 - ex.) イベント企画を若者自身で行う、SNS やショート動画の活用
- ・子ども・若者の居場所の拡充
 - ex.) 生涯学習施設でのロビーワークを推進、夏休みの自由研究企画など季節に応じた講座企画

(4) 具体的な事業と評価指標

3-2 重点取組2 多文化理解の促進

(1) 背景

- ・日本語教室の学習者数の増加
- ・外国人人口の増加
- ・多国籍化
- ・外国人児童への対応

(2) 目指す5年後の姿

異なる国籍や文化背景をもちながら、お互いの違いを認め合い、対等な立場で学びあうことができる。

(3) 取組方針

- ・外国籍の方の日本語習得機会の拡充
ex.)親子や子どもが学べる日本語教室
- ・相互理解の向上
ex.)相互理解の講座実施、遊びながら多文化理解について学べるツールを開発して周知

(4) 具体的な事業と評価指標

3-3 重点取組3 生涯学習施設の機能強化

(1) 背景

- ・生涯学習施設の利用率減少、認知度の低下
- ・生涯学習団体の減少
- ・地域の学びを支援する人材の活用が重要視されている
- ・多様な主体との連携が重要視されている
- ・部活動の地域連携・地域移行
- ・千早地域文化創造館リニューアル後の機能強化

(2) 目指す5年後の姿

地域に開かれた施設として、人が学びを通して集い、誰かと共に新しい価値をつくることのできる「文化・学びのハブ」となる。また、地域の学びを支援する人材を活用するとともに、他施設・大学・企業・小中学校などと連携・協働し、学びの成果と活動を循環させる。

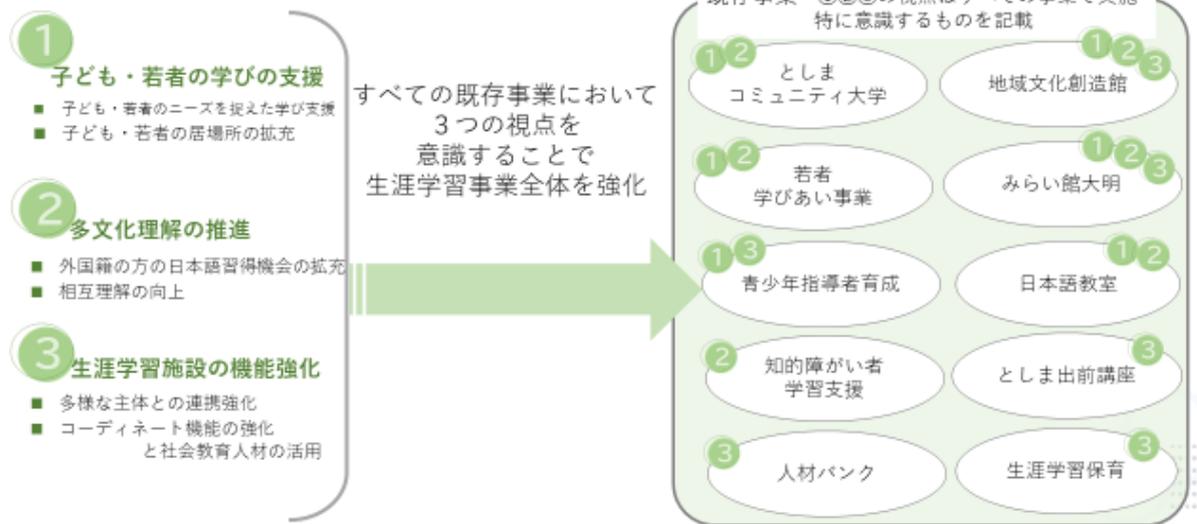
(3) 取組方針

- ・多様な主体との連携強化
 - ex.)自習やロビーワーク等の個人利用、部活動の地域連携・地域移行、図書館での学びを生涯学習施設で実践
- ・コーディネート機能の強化と社会教育人材の活用
 - ex.)各生涯学習施設への社会教育士の配置、社会教育人材ネットワーク会議の開催

(4) 具体的な事業と評価指標

既存の生涯学習推進事業において、3つの重点取組みの視点を意識することで、生涯学習全体において、取り組みを強化していきます。

生涯学習推進ビジョン 既存事業



第4章 生涯学習における評価方法

- ・生涯学習の評価における質的評価の視点の重要性
- ・令和7年度より達成状況を評価、次期ビジョンに反映

4-1 評価の種類

(1) 量的評価…数字で表されたことによる評価

Ex.)参加者数、実施回数の数量等の数字

(2) 質的評価…収集した数値やアンケート内容を分析/考察することで得られた評価

A) アウトカム評価

Ex.) スポーツ講座への参加をきっかけにウォーキングを始めた

b) インパクト評価

Ex.) 健康増進計画に基づき10年間、各種の健康事業を実施したことで区の医療費が削減した

4-2 質的評価のための9つの評価視点

視点1 講座への参加動機

視点2 講座中の学びや気づきの整理と確認

視点3 終了時点での意識の変化の確認と今後の活動への想いの確認

視点4 活動のふり返りと今後の方向性の確認

視点5 これまでの意識や役割の変化と今後の方向性の確認

視点6 人生や社会との関わり

視点7 活動継続の原動力

視点8 自分にとっての生涯学習活動の意味

視点9 今後の自分の理想像